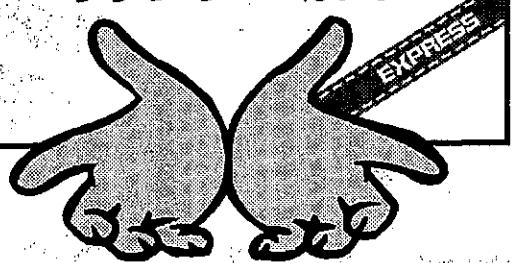


サイエス 宅配便

科学作家

竹内 薫



われわれ一般人は、すぐ
に「犯人」の生い立ちや性
格に目が行ってしまうが、
著者によれば、それよりも
「犯罪の場所」に注目すべ
きだといふ。犯罪が起こり
やすいのは、犯罪者が行動
を起こしやすい場所であり

「うじうう考えを「犯罪機雲論」と呼ぶ。犯罪は、たしかに人が起こすものだが、犯罪を起こしやすい場所(風景)には、犯罪の機会がある。著者は、さまざまな犯罪眠っているのだ。

むし、小学校でも一人で登下校させたりするが、そこにこそ犯罪の機会が潜んでいる。

以前、売れないミステリーを書いていたせいもあり、常々、犯罪学には興味をもつていた。なぜ、人は罪を犯すのか。科学的な防犯とはどういうものか。自分の子供を守るには、具体的に何をすればいいのか。犯罪ニュースに接する度に、なぜもつと、科学的で防犯ができないのか、疑問に感じていた。

う本が、個人的にかなり衝撃的だった。犯罪科学は驚くほど進化している。たゞその手法が一般社会に浸透していないだけなのだ。

著者はケンブリッジ大学院の犯罪学研究科を出た犯罪学者で、「地域安全マップ」を考案した人物。この本には、われわれの素朴な常識に反する「犯罪科学的な事実」がたくさん載つている。

たとえば、子供に防犯ブザーを持たせても、実際に

犯罪に巻き込まれそうになつた時に鳴らせるとは限らないという。ブザーを押すより先に恐怖ですくんでしまつたり、いざという時に故障していたり、せつかく鳴らしても（悪戯だと思われて）誰も来てくれなかつたり。また、犯罪者はサングラスにマスクという、子供がイメージしている「不審者」の姿でないことならない！ もちろん、ブ

たとえば、中国のある地方の建物は、四方を壁で囲ってあつて、入口は一箇所しかない。そこから入ると中庭があつて、その庭に面して居住区画が並んでいる。これは、部外者（犯罪者）が入りにくく、入つても、人々から見えやすいという意味で、きわめて犯罪抑止力の強い設計なのだ。

逆に、誰でも自由に入りできる公園のトイレは、いつたん入つたら、通行人からも公園で遊んでいる人

ランダムでは効果がなく、犯罪が起こりやすい「ホットスポット」を集中的に監視した方が犯罪が減るという。また、落書きを消すと犯罪率は下がるが、それは（落書き消しに参加することで）地域住民の意識が高まるからであり、研究者が勝手に消しても効果はないのだとか。

「科学的防犯術」を知ろう

その条件は「入りやすい」と「見えにくい」の二点。

学の研究成果を紹介していく。
れる。警察のパトロールは